

社会貢献

良き企業市民として社会に貢献するとともに、
地域社会と良好な関係をつくり上げます。

2006年度注力ポイント

- 国内外での地域貢献活動の強化
- 「OKI愛の100円募金」や各種ボランティア活動への参加者の拡大

2006年度の主な取り組み

- 中国の小学校改築を支援(P9参照)
- 支社や海外拠点での積極的な貢献活動
- 100円募金の参加口数が前年比約800口増加

2007年度注力ポイント

- 「OKIらしい社会貢献」の再確認とグループ展開
- ボランティア活動等に関する社員への情報発信強化

社会貢献の基本理念と活動体系

OKIグループは、1996年に「社会貢献推進室」を設置し、同年に制定した基本理念・基本方針に基づき、寄付や保有施設の開放、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進しています。社員のボランティア活動には、月々の募金による寄付型の活動と、社会福祉や環境保全などに関連する参加型の活動があります。また、より幅広い活動を行うために、各種の非営利組織(NPO)と広く交流・協働しています。

社会貢献活動 基本理念・基本方針

基本理念

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。

基本方針

[会社の活動]

- 会社の資源(人材・資産)を活用し、地域や国情に合った社会貢献活動を継続する。
- 社員が誇りと活力を実感し、また企業イメージを高めるOKIらしい社会貢献活動を志向する。

[個人の活動]

- 社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨し、支援する。

スローガン

できることから始めよう!

寄付型ボランティア活動 「OKI愛の100円募金」

誰もが気軽に参加できる社会貢献として1996年度にスタートした「OKI愛の100円募金」は、活動の主旨に賛同するOKIグループの役員・社員から毎月100円の募金を集める寄付型ボランティア活動です。

2006年3月には、より安定した運用と活動の拡大をめざし、一口を100円として一人最大3口まで寄付額を選択できるような制度を変更しました。2006年度末時点で、OKIグループ33社の役員・社員が参加し、参加口数は前年比約800口増加の6,023口となりました。

「OKI愛の100円募金」2006年度活動実績

日本赤十字社への 献血運搬車寄贈	300万円(マッチングギフトによる総額)
難民キャンプなどへの 古着支援	138万円
重度障害がある方の 就労支援	100万円
社員が関わりをもつ ボランティア団体の支援	307万円(25団体を支援)

重度障害がある方の就労を支援

OKIグループは、社会福祉法人東京コロニーの「SOHO支援事業」を、「OKI愛の100円募金」を通じて支援しています。同事業は、重度の障害があり、通勤が困難な方の自立を支援するために、SOHO(在宅勤務)グループを結成してソフトウェア関連業務を請け負うというものです。OKIグループは、SOHOグループの

リーダー育成や技術教育、業務に必要な設備整備などの資金を提供しています。なお、東京コロニーは2006年4月、障害者雇用促進法の改正に伴い、日本で最初の「在宅就業支援団体」（全国で8団体）として厚生労働大臣による登録を受けました。

社員が関わりをもつボランティア団体を支援

OKIグループは、社員や社会貢献推進室の申請に基づいて、社員と関わりをもつボランティア団体に「OKI愛の100円募金」による資金援助を行っています。

2006年度は、新たに社会福祉法人日本盲人職能開発センターへの支援を開始したほか、外国人留学生のための日本語文学新人賞である「2006 留学生文学賞」（留学生文学賞委員会）をサポートするなど、計25団体を支援しました。



「2006 留学生文学賞」表彰式

参加型ボランティア活動

森林ボランティア「OKI山と緑の協力隊」の活動

OKIグループでは、社員・家族が参加する「OKI山と緑の協力隊」を結成し、地域の森林の整備を行うとともに、地元の方々との交流を深めています。

2006年度は、長野県小諸市の「OKIグループが育てる森」および群馬県高崎市の観音山にある「OKIグループふれあいの森」でそれぞれ2回除伐・間伐を行ったほか、静岡県伊豆市でも間伐作業を行いました。これらの活動実施にあたっては、小諸市、NPO法人地球緑化センター、郡馬森林管理署などの協力をいただいています。



「OKIグループふれあいの森」にて

竹とんぼづくりを通じた貢献活動

OKIグループは国際竹とんぼ協会の協力を得て、1999年度からほぼ毎年、児童養護施設の子どもたちを招いて「竹とんぼ大会」を実施しています。2006年度は11月4日に東京都府中市の郷土の森博物館に20名を招待し、竹とんぼやあやつり人形の作成を行いました。

また、この活動が縁となって、国際竹とんぼ協会とともに、竹とんぼづくりを通じたさまざまな社会貢献活動を行っています。さいたま市で行われている「こども・夢・未来フェスティバル2007」に「竹とんぼ手作り体験」コーナーを設け、2002年度から毎年参加しているほか、2006年8月には、あしなが育英会による「国際的な遺児の連帯をすすめる交流会」にも協力しました。これは、自然災害や戦争・テロ・エイズなどで親を亡くした海外遺児と日本の遺児たちとの心の交流を目的に、17カ国・地域から100名の遺児を日本に招いて実施されたものです。OKIはこのイベントのなかで、子どもたちの交流プログラムの一環として竹とんぼづくりのワークショップに協力しました。



あやつり人形づくり



ワークショップの様子

ラオス語絵本をつくって現地に寄贈

OKIグループはNPO「ラオスのこども」の協力を得て、「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」というイベントを毎年実施しています。日本語の絵本にラオス語の翻訳を貼ってラオス語絵本をつくるほか、簡単なラオス語講座やラオスにまつわるクイズなどを通じて、現地の文化への理解を深めています。

2006年度は、OKIグループの社員と家族、「ラオスのこども」の研修旅行に参加する学習院女子大学の皆さんなど、昨年より12名多い34名が参加し、60冊の絵本を完成させました。



会場で行われたラオス語絵本の読み聞かせ

国内外での地域貢献活動の強化

会社施設を開放し地域の皆様と交流

OKIグループでは、会社施設を開放したイベントなどを通じて、地域の皆様との交流を深めています。

埼玉県蕨市のOKIシステムセンターでは、毎年恒例の「OKI蕨文化彩」を2006年11月に開催しました。OKIの125周年に加え、蕨地区20周年の記念行事を兼ねたこともあり、例年を上回る2,700名に参加いただきました。また、東京都港区のOKI芝浦地区では、同地区初のイベントとして11月に「芝浦感謝Day」を開催し、1,000名を超える皆様に参加いただきました。当日行われたチャリティバザーおよび縁日コーナーの売上金は、港区社会福祉協議会に全額寄付しています。



芝浦地区のチャリティバザー



蕨文化彩のミニSLコーナー

各地で清掃活動を実施

OKIグループの全国各拠点では、地域の清掃活動に積極的に参加しています。2006年7月には北海道のグループ3社の有志24名が、札幌市が主催する「豊平川ふれあいクリーン作戦withイカダ下り」に参加し、河川敷のゴミ拾いを行うとともに、札幌の夏の風物詩となっている豊平川イカダ下りにも挑戦しました。



豊平川を下った、ATM搭載(?)のイカダ

青少年向けサッカーリーグを発足

英国のプリンタ販売拠点であるOki Systems (UK) Ltd. は、2006年8月、ハンブシャー州警察と連携し、地域の青少年の健全な育成をめざしたサッカーリーグ「OKI Street Sixes Youth League」を発足しました。同リーグには7歳から17歳までの約300名が所属し、年齢別に3グループ(各15チーム)に分かれて、年2シーズンのリーグ形式で試合を行います。

サッカーを通じた健全な生活指導による犯罪抑止などの効果が期待されており、今後、州内のほかの地域でも警察や自治体と連携して同様の活動支援を実施していく予定です。



OKI Street Sixes Youth Leagueの子どもたち

現地社員に生産技術を伝承

タイでプリンタ用部品を製造するOki Precision (Thailand) Co.,Ltd.では、社長が勤務時間終了後に希望者を募り、現地の若手社員が「製品についての基礎知識」「固有技術についての原理原則論」など、生産技術を初歩から学ぶための無償講座を開いています。講座では2時間をかけ「レーザー溶接」「洗浄とは何か」「サビはなぜ発生するのか」などの講義を行っており、毎回40名以上の受講生が自主的に参加して「日本のモノづくり技術」を学んでいます。



講義の様子

関係者の声

当社は以前から現地化を進めており、社員(約380名)のほとんどはタイ人です。十分な学校教育を受けられなかった人も多いのですが、潜在的には優秀な人が多いことに気づき、モノづくり講座を始めました。講義の内容は、全く知識のない人でも理解できるよう工夫していますが、毎回質問が出るなど、受講者の熱心さに嬉しい驚きを感じています。



Oki Precision (Thailand) Co., Ltd. 取締役社長 黒澤 興治